

里小だより

「いのち 自立 支えあい」

☆人の話を「聴く」 ☆相手を大切に「言葉づかい」 ☆自分をみがく「そうじ」

大津市立仰木の里小学校

学校だより 8月号

在籍児童数 306名

令和5年 8月 3日

自立が育つ夏休み、まだ続きます。

7月20日の終業式で、50年以上も前になる校長の小学生時代の夏休みの話をしました。昔はよかったという懐古話ではなく、その時に思ったこと、感じたこと、学んだことを50年以上経っても思い出せ、大切に思う気持ちが、100年後、200年後の子孫にも体験してみしてほしいと思わせ、自分がSDGsを意識することになっているんだという逸話です。

車はなくて満員電車で旅行(帰省です)したことや、その田舎でトンボを採ろうと探求したこと、今と違ってネットなどの情報がない中、雑誌など僅かな情報を頼りにアポロ11号(7月20日は月面着陸の日)に憧れ、大阪万博ではアメリカ館を目指したけど入れなかったこと、太陽の塔も入れなかったけど好奇心だけは残り続け、先日、やっと予約して入館できて50年来の夢が叶ったことなども話しました。下校のときに、子供たちから「校長先生の話が面白かった。」と言ってもらえてうれしかったです。

今の子供たちには今の環境での楽しみ方があるでしょう。できれば、小さなことでもいいから、長い先の世代の人でも共感できる思い出に恵まれればいいなと思います。

与えることではなく、自分から考え、行動を起こすこと。それまで辛抱強く大人は待つことも大切です。とはいえ、目を離すと危険な事故や事件が起きているのも現実です。モノやサービスに溢れ、本当の自立を育てるにはどうすればよいのか、とても難しい時代になりました。



<8月3日の大津っ子未来会議の様子>

本校から3名の児童会運営委員が出席し、グループ割りされた他校の児童・生徒の皆さんと交流しました。

コロナ以後オンライン化され、遠くまで引率・出かけることもなく、会合が開催できます。

対面と異なりオンラインでの発言や協議には独特の作法があります。より発言の順序や聴くマナーを守る意識が求められます。以前のような口々に話すというのではないわけです。

<お知らせ>

令和5年度の教職員新体制は4月号で示しております。その際に関連して小学校専科(教科担任制)指導推進事業の説明文中で、4年生では、教務主任が担任を兼務することと子供の力も加えた複数の教員によるチーム学年で経営することをお知らせしておりました。先行的・試行的な取り組みでしたが、子供たちの成長の様子からまずまずの成果を上げられたものと捉えております。しかしながら、本来教務主任が全校児童のために力を発揮していく上では、苦しい取り組み方でもありました。2学期からは、教務主任の担任兼務を解除し、4年1組は先生が担任となります。4年生の学年チーム制は持続可能な範囲で継続していくため、教務主任は当面の間、チーム学年に入って学年経営に関わっていくこととします。どうぞご理解ご支援のほど、よろしく願いいたします。